

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年10月24日
タイトル	福山の宝「スイゲンゼニタナゴ」保全に向け活動スタート！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年10月4日（火）「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会総会」が開催されました。スイゲンゼニタナゴは、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動植物種に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚で、岡山県と広島県では芦田川水系にのみ生息が確認されています。

このため「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」を発足させ、水土里ネット福山が管理する「芦田川用水」にスイゲンゼニタナゴが生息していることから水利権者として協議会の一員となり、保全に向けて活動しています。

「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会総会」では、岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授の中田和義氏を会長に有識者や地元の土木常設員、広島県・福山市の関係課、水土里ネット福山等会員と環境省中国四国地方環境事務所野生生物課からオブザーバーが参加され、各会員から活発な意見が交わされました。



主に2016年度事業計画、収支予算、生物多様性保全推進支援事業計画について協議しました。2016年度事業計画では、1. スイゲンゼニタナゴ等生息調査、2. 人工水路の改善、3. 普及啓発活動、4. 啓発資材の作成等が協議されました。

スイゲンゼニタナゴ等生息調査では、10月7日から9日の3日間で加茂川、七社幹線用水路において岡山大学大学院環境生命科学研究科中田准教授を中心に調査することが報告されました。普及啓発活動として10月9日に「ふくやま環境フェスタ2016」が開催され、その中で「生物多様性保全セミナー」と題し盈進中学高等学校教諭の古本哲史先生が講演をされ、スイゲンゼニタナゴ生体の水槽展示やビデオ放映、パネル展示をするとともにスイゲンゼニタナゴのペーパークラフトBOX作成会を開催されることが報告されました。

協議会で報告された加茂川、七社幹線用水路の生息調査では、加茂川、郷分幹線用水路、丸川分木工の調査取材しました。中田准教授をはじめ、岡山大学学生の方々が水深や魚類をきめ細やかに調査されました。



スイゲンゼニタナゴの産卵母体となる「マツカサ貝」や絶滅危惧種となっている「メダカ」をはじめ、多くの生物が生息していることが分かりました。

10月9日は「ふくやま環境フェスタ2016」取材しました。「生物多様性保全セミナー」と題した盈進中学高等学校教諭の古本哲史先生の講演をお聞きしました。スイゲンゼニタナゴの生態や今おかれている環境など詳しく教えていただきました。

古本先生の講演で印象に残った言葉は「人間よりも前から生息しているスイゲンゼニタナゴと、もう少し共に生存したい。福山の宝であるこの小さな魚を守るために大勢の人が協力しています。みなさんにスイゲンゼニタナゴのことをもっと知ってもらおうとこの講演を開催しました。」とおっしゃられたことです。

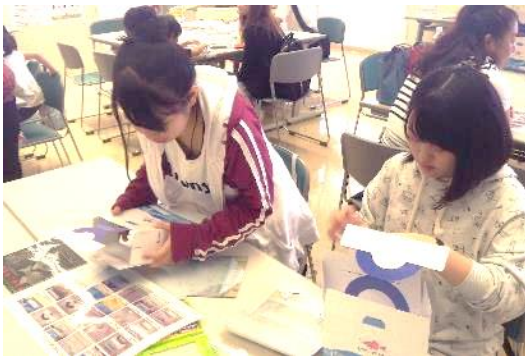
水槽で元気に泳ぐスイゲンゼニタナゴはとてもきれいで、福山の用水路で元気に泳ぐ姿を想像しました。



家族連れなど多くの方が興味深く聞きました！

生体展示に勝るものなし！

講演の後に開催されたペーパークラフトBOX作成会では、多くの参加者が水槽のスイゲンゼニタナゴを見て色を付けてペーパークラフトを作成しました。工作をするように楽しく参加でき、スイゲンゼニタナゴなど多様な生物が用水路に生息する様子を身近に感じることができたのではないのでしょうか。



スイゲンゼニタナゴを守るために多くの関係団体・機関が協力して保全活動が具体的に動き出したことを実感しました。

水土里ネット福山の管理する疏水「七社頭首工用水」にもスイゲンゼニタナゴをはじめ多様な生物が生息できるよう活動に協力し、自然環境を守る農業用水路の役割と重要性を発信してまいります。